

## ネタと言える人生

島本 卓

私は、21歳のときに知人が運転する車の助手席に同乗し、その車の自損事故を起こしたことで頸髄C4を損傷した。このとき私自身、車椅子生活になるとは思いもしなかった。21歳と言えば私にとって、幸せや楽しみが一番感じられた時期だったが、車椅子生活を宣告される。しかし、波乱万丈と言える人生だったことを、この機会に書こうと思う。あくまでも私の思っていることなので、表現に誤解を招いた場合はお許しください。

私は、生まれてすぐ大きな病気になったことがある。それが理由で運動もろくにできず、「病弱」と言われていた時期が長くあった。今となって誰に言っても「そんなはずないやろ」、「嘘をつくな」なんて信じてもらえないが真実です。ガキの頃から、両親に心配と迷惑をかけまくったことしか思い出がなく、今でも変わっていません。

次に中学校時の話をしてみると、成績はめちゃくちゃよかった。学年順位が1桁をとったときは、自分で天才かもしれへんって何度も思った。今でも中学時代の友達らと、頻りに集まってご飯に行くことがあります。その場で、毎回のように出る鉄板ネタであり、友達らにとって「納得がいかない」という意味です。中学2年になると、勉強もせずハンドボールばかりに夢中になる。次第に滑り台を滑るかのごとくに成績は下がっていききました。中学3年になれば、後ろから数えるほうが早くなりました。

高校進学を考える時期に、面談が行われた。担任から、「進学するんか？」と聞かれ、「自衛隊にいかないか」と誘われる。勉強で進学は無理だと知り、ハンドボールのスポーツ推薦で高校へ進学できないかと顧問に相談する。相談が実り、引き取ってくれる学校が見つかった。しかし、不良の集まる学校に行ったので、まあまともな学校生活を送るはずがないことは想像できた。

案の定、高校1年が終わるころには退部し、学校も会長出勤へと変わる。毎月のように、自主退

学を勧められるぐらいに、有名になる。私が学校をやめると言うのと、怒られるといった矛盾だらけの期間がすぎ、高校3年で卒業することができた。これがのちに「自分で卒業証書をつくった」と言われる。現在で例えると偽装と疑われた。高校を卒業したことは事実ですので、安心してください。

卒業後は、新卒採用された会社を3か月で退社する。その後は定職にもつかずに、ふらついていました。自らの選択でそれた人生を送ることになる。一生背負うものも大きかったが、人に恵まれたことが私の中でとても大きな宝物になりました。その方々と出会ってなければ、今の私はいなかったことは間違いありません。

最近になって「人生とは」と考えることが増えた。「もし事故にあってなければ」どんな人生を送っていたのか、興味深いものがある。間違えなく言えることは、「人のため」とか考えないまま、自己満足できればいいと思って日々の生活を過ごしていたはずです。

一瞬の出来事で体の自由を失うことになったが、「すべてのことにピリオドを打てた」喜びも大きかった。はっきり言えばプライドの塊だったから、困っても意地を張ったり、見栄っ張りなことしかできなかった。しかし今なら、両親に一度でも親孝行できる機会になったと思えば、二人に笑ってもらえると思う。このような綺麗ごとを言っていますが、2年前に姫路で自立生活をスタートさせた。引っ越し前日まで両親には言っておらず、当日に荷物を詰めるような強行突破にでる。両親に言われたのは「あんたらしいわ」でした。

なんだかんだ書いてきましたが、生きていたらこんなに楽しいって思えるんですね。車椅子になって辛いのは最初だけで、車椅子やからできることや、見える景色も違ってきました。

まだまだやりたいことがある。行ってみたい場所がある。これからも多くの仲間に出会えることを楽しみにしています。